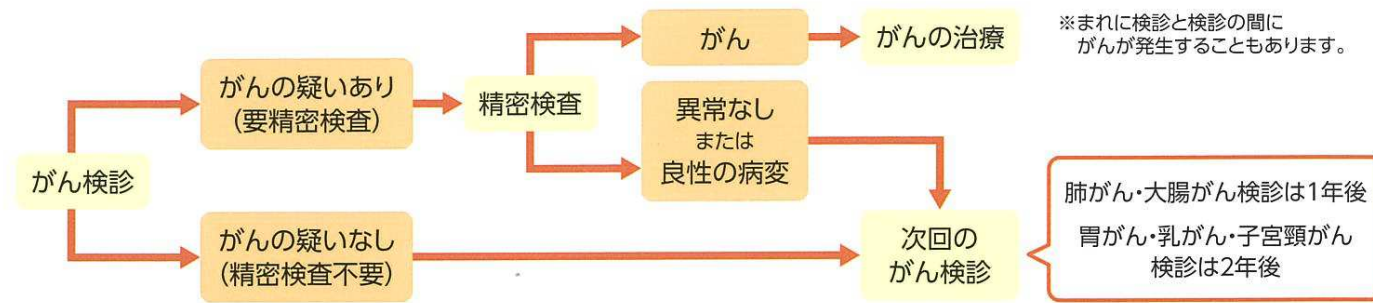


がん検診の流れ

がん検診を受診すると、「要精密検査」か「精密検査不要」の結果が出ます。「要精密検査」の場合は、精密検査を受診しましょう。「精密検査不要」の場合でも、検診では見つけれないがんがある場合がありますので、痛み、出血、しこりなど何らかの自覚症状が出現した場合は、早めに医療機関を受診しましょう。そして、次回のがん検診の時期を確認し、定期的ながん検診を受診することが大切です。



がん検診にデメリットはあるの？

がん検診では、検出できない小さながんや、見つけにくい場所や形であったことなどにより、がんを100%発見できない場合があります。反対に、がんではなくても「要精密検査」と判定されたり、放置しても死に至らないがんが見つかったりして、結果的に不必要な精密検査や治療を受けなければならない場合もあります。しかし、がん検診はこれらの低い確率で起こるデメリットよりも、がんで亡くなることを防ぐメリットが大きいことが科学的に証明されているため、定期的を受診することが大切です。

がん検診はお住まいの市町村で受診が可能です。がん検診の実施内容や自己負担金はお住まいの市町村によって異なりますので、詳しくは市町村担当窓口へお問い合わせください。また、お勤めの方はお勤め先で受診が可能な場合がありますので、加入する健康保険組合等にお問い合わせください。



がん検診は個人で受けると高額ですが、市町村によっては助成金が出るため、少ない費用で受診できてとてもお得です。

厚生労働省が指針で定めている科学的根拠に基づくがん検診

検診名	対象者	受診間隔	主な検査項目
胃がん検診	50歳以上男女	2年に1回	胃部X線または胃内視鏡
大腸がん検診	40歳以上男女	1年に1回	便潜血検査
肺がん検診			胸部X線、喀痰細胞診
乳がん検診	40歳以上女性	2年に1回	マンモグラフィ
子宮頸がん検診	20歳以上女性		子宮頸部の細胞診、視診及び内診

定期的ながん検診を受診しましょう！

愛知県保健医療局健康医務部健康対策課
〒460-8501 愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話番号 052-954-6326

市町村が実施するがん検診については、お住いの市町村担当窓口にお問い合わせください。

愛知県 市町村のがん検診



がん検診のススメ



若くても
検診は必要！

早く見つけて
しっかり治そう！

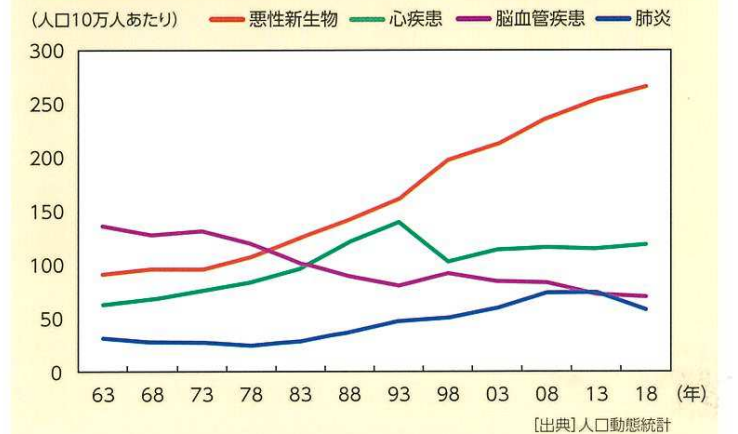
現在日本では、生涯のうちに**2人に1人ががんになる**といわれています。

愛知県では、年間約50,000人の方ががん^{りかん}に罹患(かかること)し、年間約19,000人の方ががんを原因として亡くなっています。でも、がんは決して怖い病気ではありません。早期発見・早期治療により治る病気です。がんを早期に発見できるがん検診について正しく理解し、定期的ながん検診を受診しましょう。

がんは1981年以降ずっと死亡原因の1位なんです



死因別死亡率の推移(愛知県)



がんは身体の様々な部位に発生しますが、罹患者が多い部位と死亡者が多い部位は異なります。男女ともに胃がん、肺がん、大腸がんは罹患者が多く、死亡者も多くなっています。一方、男性の前立腺がんや女性の乳がんは罹患者は多いですが、死亡者は比較的少なくなっています。

がん罹患者が多い部位の罹患人数(2017年 愛知県)

	1位	2位	3位	4位	5位
男性(人)	前立腺 4,852	大腸 4,786	肺 4,449	胃 4,389	肝臓 1,284
女性(人)	乳房 4,564	大腸 3,467	肺 2,029	胃 1,769	子宮 1,552

[出典]愛知県のがん統計

がん死亡者が多い部位の死亡人数(2017年 愛知県)

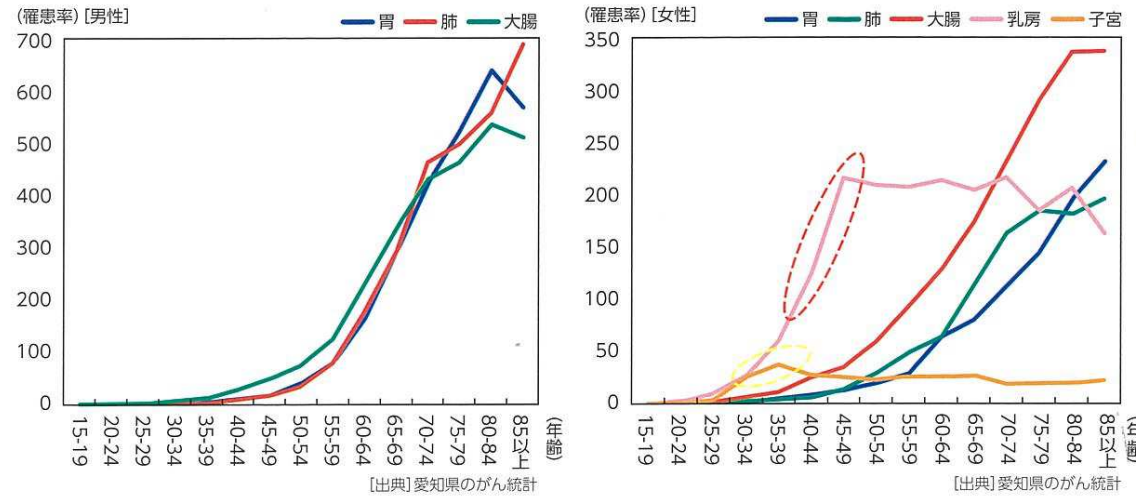
	1位	2位	3位	4位	5位
男性(人)	肺 2,817	胃 1,672	大腸 1,470	脾臓 932	肝臓 885
女性(人)	大腸 1,203	肺 1,027	脾臓 849	胃 814	乳房 745

[出典]人口動態統計

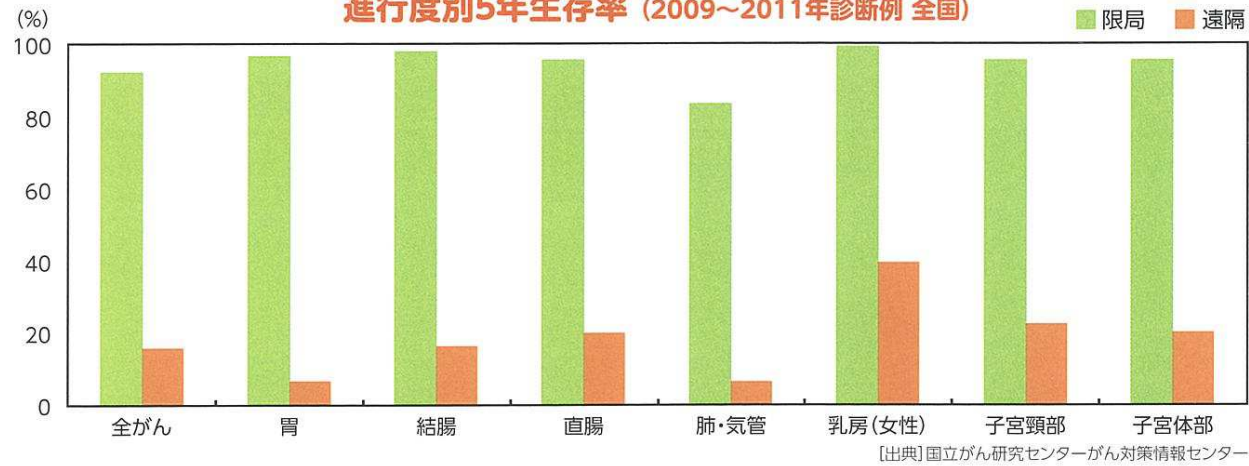


がんの罹患率は40歳代くらいから徐々に増加していき、高齢になるほど高くなっていきますが、女性の乳がん、子宮頸がんは若い世代から罹患率が高くなる傾向があります。

年齢階級別・部位別罹患率 (人口10万対 2017年 愛知県)



進行度別5年生存率 (2009~2011年診断例 全国)



がん検診は、症状のない早期の段階でがんを発見することを目的としているため、がん検診を受診することが、がんによる死亡を減らすことに繋がります。**がんは早期に発見し治療すれば、9割以上の方が治ります。**早期発見のためには、定期的ながん検診を受診していくことが大切です。

がんの進行度



- 限局** がんが発生した臓器以外には広がっていない段階
- 遠隔** がんが発生した臓器から遠く離れた臓器まで広がっている段階

がんは進行するほど、生存率が低いです…。

女性は知って欲しい豆知識

ブレスト・アウェアネスについて

ブレスト・アウェアネスとは、**乳がんに関する正しい知識及び乳房を意識する生活習慣**のことです。自分の乳房の変化に気をつける習慣を身につけ、しこりなど気になる症状があればすぐに受診しましょう。

胃がん検診 (胃部X線検査または胃内視鏡検査)

胃部X線検査

発泡剤(胃を膨らませる薬)とバリウム(造影剤)を飲み、検査を受けます。身体を仰向けや俯せに動かしながら撮影し、胃の中の粘膜を観察します。

胃内視鏡検査

口または鼻から内視鏡を挿入し、胃の内部を観察します。検診時に疑わしい部位が見つければ、そのまま生検(組織の一部を採取する)を行う場合もあります。

要精密検査の場合は、再度胃内視鏡検査を行います。



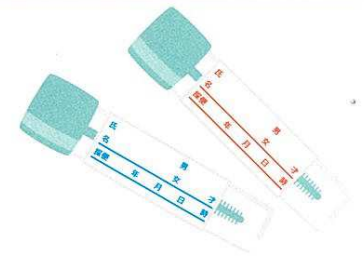
大腸がん検診

便潜血検査

ご家庭で2日分の便を採取し、便の中に血液が混じっていないかを調べます。

要精密検査の場合は、大腸内視鏡検査を行います。

大腸内視鏡検査は下剤で大腸を空にした後に、肛門から内視鏡を挿入して大腸を観察し、がんやポリープなどがいないか調べます。



肺がん検診 (胸部X線検査と痰の検査)

胸部X線検査

大きく息を吸い込んでしばらく止め、胸部のX線撮影を行います。

痰の検査

50歳以上、喫煙指数(1日本数×年数)600以上の方が対象です。痰を専用の容器に入れて提出します。痰に含まれる細胞成分を顕微鏡で観察してがん細胞の有無を調べます。

要精密検査の場合は、胸部CTや気管支鏡検査を行います。

胸部CT検査はX線を使って病変が疑われた部位を撮影し、詳しく調べます。気管支鏡検査は気管支鏡を口や鼻から気管支に挿入し、病変が疑われた部分を直接観察します。



乳がん検診

マンモグラフィ(乳房X線検査)

乳房を板で挟んで薄く伸ばした状態で撮影します。乳房が圧迫されるため、多少の痛みを伴いますが乳房内部の様子をより鮮明に観察することができます。

要精密検査の場合は、マンモグラフィの追加撮影、超音波検査、細胞診や組織診を行います。

超音波検査は超音波で、疑わしい部分を詳しく観察します。細胞診及び組織診は疑わしい部分に針を刺して、細胞や組織を採取してがんかどうかを診断します。



子宮頸がん検診

子宮頸部の細胞診・視診・内診(触診)

子宮頸部(子宮の入り口)を、先にブラシのついた専用の器具で擦って細胞をとり、異常な細胞がないかを顕微鏡で調べます。

要精密検査の場合は、コルポスコブ検査を行います。

コルポスコブ検査はコルポスコブ(膨拡大鏡)を使って、子宮頸部を詳しく観察します。異常な部位が見つければ、組織を採取してがんかどうかを調べます。

